

自ら学ぶ意欲を育てる評価のあり方

竹 崎 葉 子

はじめに

前任校が学力向上フロンティア事業研究指定を受けたことをきっかけに、平成14年より継続して「学力向上につながる評価のあり方」について自らの研究テーマとして取り組んできた。学力向上という目的を考えたとき、本来ならば「学力とは何か」という学力観から論じなくてはならないが、本研究では新学力観に立って実践を行っている。なぜならば、新学力観に沿って学習指導要領には社会科の目標が示されており、その目標が観点別学習状況の評価における評価規準を設ける際の基盤となっているからである。つまり、新学力観に立脚した「学力」を向上させるということは、観点別学習状況の評価をあげることに他ならない。言い換えれば生徒が「やる気」を起こす評価をすることこそ「学力」を向上させるということになる。それでは、どうすれば生徒が「やる気」を起こす評価ができるのであろうか。

まず第一に、「学びと評価の一体化」の実現が挙げられる。

評価の目的には、「教師が、生徒が社会科の目標に到達しているかを知る」側面と「生徒自身が社会科の目標に到達しているかを知る」という両面があるといえる。これまで私たち教師は授業ごとあるいは単元ごとに、形成的評価によって生徒の到達度をはかり指導にフィードバックし、授業のあり方を見直すなど指導に生かしてきた。しかしながら生徒に対しては、どうであろう。形成的評価が学びにフィードバックされただろうか。単元テストやノート、ワークシート、レポートなどの評価材は、訂正やアドバイス等記入され返却されたとしても、それらを生徒が評価とつなげて考えられる工夫をしてきたであろうか。“学びと評価の一体化”を生徒が実感するためには、評価材の一つ一つにきちんとした評価規準を定め、「このレポートはこのような表現の工夫をすればAになるんだ」「このワークシートの資料から、もう一つ読み取ることができていたらBだったんだ」といったように生徒にもはっきり分かるような具体的な行動目標を示していかななくてはならない。そうすれば学期末に総括的評価が通知票で示されたとき「なんで僕は3なんですか」とか「テストの点が私より悪いのにAさんはなぜ5なんですか」などといった質問はなされないであろう。また、社会科を暗記科目という生徒もいなくなっているはずではないだろうか。

このような“学びと評価の一体化”の重要性については、以前からいわれているところであり「観点別学習状況の評価における評価規準表」をほとんどの学校で現在では示している。にもかかわらず、生徒にとっては“学びと評価が一体化”しないのは単元テストやノート、ワークシート、レポートなどの評価材がどのような過程をたどって3や5という総括的評価に結びつくかが生徒自身にわからないからである。とくに、「関心・意欲・態度」の観点を生徒にもわかるようにいかに評価するかは大きな課題ではないだろうか。

第二に、“教師側からだけの評価の運用”という問題が挙げられる。

教師側からだけの評価が、他律的で自主性の少ない、受動的で型にはまった生徒を育てる一因になっているとも考えられる。自主的に学ぶ生徒を育成するためには、教師の評価に加えて自己評価、生徒の相互評価など多様な評価方法が必要ではないだろうか。また、“学びと評価の一体化”という観点からも、教師の評価についてのガイダンスも大切になってくる。

以上のことから、評価方法の工夫と生徒にわかりやすい学びと評価の一体化の実践を通して「自ら学ぶ意欲を育てる評価のあり方」を考察していきたい。

1. 研究の仮説

評価方法を工夫し、生徒にわかりやすい学びと評価の一体化を具現化すれば、生徒の自ら学ぶ意欲が育ち学力が向上するのではないか。

2. 研究の実際

(1) 学びと評価の一体化～個人評価表の活用

多くの生徒にとって通知票で知る総括的評価の“5のAAAA”は社会科を学ぶ外発的動機づけになっている。つまり総括的評価が生徒の「やる気」のもとになっているのである。生徒に目標に対して自分の力を発揮してできるだけその目標を成し遂げようとする、達成動機が働くと考えられるので、それぞれの観点を点数化にし、何点に到達すればAなのかという目に見える表を作成した。このように書くと新しいもののようであるが、教師が総括的評価をする際の手順を生徒自らにさせるということである。つまりこれまで教師は評価材ごとに評価したものを点数化し、パソコンなどに記録をしていた。学期末に一齐に計算し、評定を出していたわけであるが、点数化された評価材を生徒自ら表に記入し計算していく評価記録表のようなものである。例えば資料1の個人評価表は2年生1学期のものである。

現在生徒は“歴史復習ノート”“歴史ワーク”“ワークシート歴史①, ②, ③”“島根県のポスター”“藩政改革”“中間テスト”“テスト直し”の評価を記入し終えている。これらの評価材について具体的な評価方法は以下の通りである。

①復習ノート

毎回の授業ノートをとったページの見開きのページに、その日のうちに復習をするよう指導をしている。内容は生徒自身が考えるのが一番良いのだが、最初は具体的な内容を示さないといけない生徒がほとんどであった。

- そこで
- ア 重要用語調べ
 - イ 資料集の資料の読み取りと考察
 - ウ 重要用語の漢字練習
 - エ 授業内容に関する新聞記事、ニュースを調べと考察
 - オ 授業内容の感想
 - カ 授業ノートの図表やイラストを使ったまとめ

の中から自分にあったものを2つ選んで、継続して行うよう指導した。資料2はその一例である。

評価規準は「関心・意欲・態度」の観点では

- 5 毎回必ず2種類の復習を行っている
- 4 毎回復習しており、2種類の復習を行っていない回が3回以下である
- 3 毎回復習をしているが4回以上が1種類である
- 2 復習をしていない日が4日以下である
- 1 復習をしていない日が5日以上である

「思考・判断」の観点では

- 5 重要用語調べや授業のまとめ、感想はよく要点をとらえて構造化されている

【資料1 個人評価表】

2年生1学期個人評価表				
評価材料	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
自己評価カード * 評価値 * 5回テスト	10			10
地理復習ノート ワーク	5 5	5		5
歴史復習ノート ワーク	5 5	5 5		5
島根県ポスター	5 5	5 5	7 10	
藩政改革	3 5		5 5	
ワークシート 地理 ①				5
②		5		
③				5
歴史 ①			3 5	
②		3 5		
③			3 5	
中間テスト	3 10	15 20	9 10	27 60
テスト直し				17 20
期末テスト	10	15	15	60
テスト直し				20
総点	60	60	60	180
A	4.8以上	4.8以上	4.8以上	14.4以上
B	4.7以下	4.7以下	4.7以下	14.3以下
C	2.1以下	2.1以下	2.1以下	6.4以下
1学期評定				

- 資料集の資料や新聞記事と授業を上手に関連づけて考察している
- 3 重要用語調べや授業のまとめ、感想は要点をとらえている
 - 資料集の資料や新聞記事と授業を関連づけている
 - 1 要点がとらえられていない、授業との関連が薄い

【資料2 復習ノート】

まとめ

産業革命による社会はどうか

17C~18C 人権思想の広まり → 日本は?

ロック (イギリス) 市民政府論、悪い政府はかたがひ

モンテスキュー (フランス) 法の精神、三権分立

ルソー (フランス) 社会契約論、人間は生まれながらにして自由平等である

フランス革命

貧富差 → 私有財産

身分 → 資本家の階級差へ → 資本主義社会

私有財産のない社会

資本家のいない社会

社会主義社会

マルクス

欧米…市民革命による自由平等による

手工業 → 経済活動の自由 → 産業革命

農業 → 商品作物を大量生産しようとする

工場 → 機械工業 → 大量生産

労働者 → 長時間労働、まじりこぼしの仕事、スラム化、不衛生

労働者 → 児童、女性

単語調べ

社会主義

意味 労働者や農民の平等な生活を実現しようとする考え。

社会主義、社会主義、社会主義、社会主義、社会主義

資本主義

意味 資本家が工場・機械・原料などでこそっと、安い労働者を育て、7利以上を目的に自由に生産しようとする。

資本主義、資本主義、資本主義、資本主義、資本主義

②ワーク

ワークは解答は配布せず、授業の予習に教科書で調べて行ったり、復習に自分で考えて行うよう指導している。その際、空欄が残らないようしっかり調べるよう指示している。この段階の評価が「知識・理解」の観点の評価となり、単元ごとに解答を配布し〇付けをしたり正答に直したりする段階の評価を「関心・意欲・態度」の観点の評価となる。

③ワークシート

「資料活用・表現」の観点の評価材であるワークシート「江戸時代の人口の変化」(中学校新歴史のファックス教材集/明治図書より)での評価規準を一例として挙げると、

- *表・グラフが正確に作成できる
- *江戸前期人口が急増した理由と後半になって停滞した理由をこれまでの学習と関連づけて説明できる
- *地方ごとの人口推移のグラフを正しく読み取り気づいたことを挙げるができる。

以上3つができていると5点、以下、減点法で1カ所につき1点減点した。

④中間テストおよびテスト直し

中間テストおよび期末テストは評価材として使用しているが、学力テストなどそれ以外のテストは使用していない。

定期テストは、問題作成時に観点別に問題を作成している。解答欄に明示し生徒自身が個人評価表に振り分けて記入ができるよう配慮している。それぞれの観点の問題例を挙げると

- Q1 今年から5年間、堀尾吉晴が松江城を開いた記念のイベントが行われている。(中略) 松江城が築城されはじめて今年は何年目にあたるかを答えなさい。(関心)
- Q2 表から平成2年と平成12年の「産業別就業者数の割合」をグラフをつくって比較したい。棒グラフ、折れ線グラフ、帯グラフ、円グラフのうちどのグラフが適切かを理由を述べて

答えなさい。(判断)

Q3 グラフから江戸時代の最初の100年で耕地面積はおよそ何倍になっているかを読み取りその理由を答えなさい。(資料活用)

Q4 蝦夷地から屋久島まで歩いて正確な日本地図を作成した人物を答えなさい。(知識)

次に「テスト直し」の方法であるが、テストが返却されてから自分が間違った所をやり直すのではなく、テスト終了後すぐに問題用紙を持ち帰らせ生徒にもう一度テストをやってくるように指導している。また単にやるだけでなく満点になるよう答案を考えてやり直して来るよう伝えている。

つまり生徒の自己採点をテストを受けた当日にするよう求めているのである。テストの答案の返却は一般的に速いほど学力向上の上からも効果が高いと考えられる。しかしながら生徒の自己採点の正確さについては不安もある。そこでテスト返却時テスト直しをしてきた答案に自ら教師が解説した正答を記入し直しを行って提出させ、もう一度同じテストを繰り返し定着を計っている。

このテスト直しと再テストは「知識・理解」の観点で点数化し評価している。

残りの2つの評価材である“島根県のポスター” “藩政改革”は調べ学習のまとめの作品である。このような作品の評価については次の多様な評価方法の工夫の項目で説明する。

(2) 多様な評価方法の工夫～自己評価カード、生徒の相互評価の活用

個人評価表の一段目に、「自己評価カード」という項目がある。

これは質問紙法を使った「関心・意欲・態度」と、前時学習した知識の定着や時事に対する関心を自己評価するためのカードである。先に述べたとおり、「関心・意欲・態度」の観点を生徒にもわかるようにいかに評価するかは大きな課題であり、「関心・意欲・態度」こそが学力向上の大前提となる大切な観点であると考ええる。

今年度の島根県社会科研究大会松江大会への取り組みの中で、松江市社会科研究会中学校部が各中学校に「生徒育成の重点課題」についてアンケートを行ったところ大変興味深い回答が集計された。重点課題の一番目は“学習規律ができていない”以下“知識の定着がはかされていない” “社会的事象に対して切実さや身近さを感じていない” “資料の分析ができない”と続いている。

この学習規律と知識定着、時事への関心を、授業開始から5分程度自己評価するために資料3にある自己評価カードを用いている。

左側の質問は生徒自身の学習規律を問うものであり、右の欄は生徒が順番に前時の授業内容から出題する5問テスト(資料4)の解答欄である。この問題の採点は隣の席の生徒が行っている。誤って習得された漢字などは自分では気づかず正確に直せない場合があるため客観的に判断できる

【資料3 自己評価カード】

2年社会科自己評価カード(忘れ物は忘れた数、発表・質問も回数も正の字で記入)

		3組 番 氏名	
5月 21日	チャイム着席できた。	0	1 不平望茶の 南京条約
	復習ノート、ワークをやってきた。	0	2 江戸幕府
	授業に必要なものを忘れなかった。	0	3 徳川幕府
	積極的に意見を発表したり疑問を質問した。	F	4 7622革命
	右の小テストの点数	4点	5 幕府革命
5月 22日	チャイム着席できた。	0	1 ロック・市民政府論
	復習ノート、ワークをやってきた。	0	2 行政・司法・立法
	授業に必要なものを忘れなかった。	0	3 幕府で食べた所
	積極的に意見を発表したり疑問を質問した。	T	4 17c 18c 半ば
	右の小テストの点数	3点	5 幕府関係者
5月 24日	チャイム着席できた。	0	1 Aハと幕府で清が敗れた(PAN戦争)
	復習ノート、ワークをやってきた。	0	2 陽明学
	授業に必要なものを忘れなかった。	0	3 洗心楼
	積極的に意見を発表したり疑問を質問した。	F	4 幕府と3工業(編)
	右の小テストの点数	5点	5 17c

よう配慮した。隣という近い距離なのでお互い教え合いながら自己評価のような相互評価を行っているわけである。

評価材としての活用法であるが、学習規律については基準点を5として「チャイム着席ができなかった」などのマイナスの行動1つにつき1点ずつ減点し、「積極的な意見発表、疑問の質問」などのプラスの行動1つにつき1点ずつ加点する最高点10点、最低点0点の評価である。

しかし、学習規範の自己評価は自分に甘い生徒と厳しい生徒で客観的な判断が難しい。そこで次の項で述べる教師との評価についてのガイダンス（面接）が大切になってくる。

5問テストは「1学期分の正解数÷出題数×10」で生徒に計算させて、「知識・理解」の観点で評価している。出題については学級全員が出題し終わる2学期と3学期に、「思考・判断」の観点で

- * 授業の要点を出題している
- * わかりやすい文章で答えが限定されるよう出題している
- * 誤字などがなく、解答も正確である

以上3つができていれば5点、1カ所不足しているところがあるごとに1点ずつ減点して評価している。資料4の上半分を刷って生徒に配布し、問題作成した生徒が2分待って解答を板書している。

1, 2年時は5問テストを行っているが、3年では公民的分野になるため新聞の要約発表を行っている。「クラスメートのためのニュース解説」と名付けているが、生徒が順番で3大紙いずれかの新聞の一面記事を1つ選んでわかりやすく解説文を書いて発表していくものである。発表を聞いた生徒は自己評価カードの感想欄に、時事の要約と感想をまとめる。これについての評価の説明は省略する。

次に生徒の相互評価の活用については「都道府県を調べよう～島根県」の単元の調べ学習を例として説明する。

この単元ではまずワークシートを用いて島根県の特徴をつかみ、それぞれの生徒が「人口と産業」「歴史と産業」「交通と観光」というように特色の中から2つのテーマを選んで2つの関連を追求することねらいとし、まとめのポスターを生徒同士が見合うことによって島根県の全体像をつかませることにした。

学校での調べ学習はパソコン室、図書室それぞれ1時間行った。さらに、何をどこで調べたらよいかという調べ方についての学習と、グラフ・表・イラストなどの活用とわかりやすいまとめ方についての学習を机間指導で個別に行いあとは春休みの宿題とした。

生徒の調べ学習の成果である“島根県のポスター”を相互評価したわけであるが、ポスターを見合う場合、教師が評価のポイントを伝えた上で生徒相互で評価しあってみることにによって、自らの作品についての振り返りもでき次の学びにつながると考えられる。また分かりやすく表現するとはどういうことかを友達の作品から学ぶことができる。教師が分かりやすいと考える作品と、生徒が考えるものが違う場合もあり、

【資料4 5問テスト】

社会科 5問テスト 実施日 4月23日

(出題者) 3組 番 氏名

問題 漢字1点、ひらがな0.5点

1. 全国から年貢米や特産物が送られ、大阪に置かれたのは何でしょう？
2. 17世紀後キタゴロから栄えた町人文化を何というでしょう？
3. ②の中心は大阪や京都ですがそこを特に何というでしょう？
4. 「日本永代蔵」など浮世草子を完成させた人物はだれでしょう？
5. 「古事記」を研究して「古事記伝」を書き国学を大成した人物はだれでしょう？

解答

1. 蔵屋敷
2. 元禄文化
3. 上方
4. 井原西鶴
5. 本居宣長

教師の思いこみによる一方的な評価を避けるためにも効果的だと思われる。資料5は生徒が評価時に使ったワークシートである。

【資料5 相互評価用ワークシート】

友達の「島根県のポスター」を評価してみよう！

① あなたが見てみたいという気持ちになったポスターを3つ記号で選ぼう。
(〇) (⑩) (㊦)

② タイトルが内容とよく合っているポスターを3つ記号で選ぼう。
(㊦) (㊦) (㊦)

③ 正確なグラフと分布図の両方が描かれているポスターをすべて記号で選ぼう。
(㊦) (㊦) (㊦)

④ 内容の説明のために、グラフと分布図が効果的に使われていると思うポスターをすべて記号で選ぼう。(㊦) (㊦) (㊦)

⑤ 説明文が特にわかりやすいポスターを3つ記号で選ぼう。
(㊦) (㊦) (㊦)

⑥ 説明文に疑問をもったポスターの記号を選んで、どのような疑問かを文章で書きなさい。いくつ選んでもかまいません。

⑦ この点を工夫すればさらに良くなるというポスターの記号を選んで、さらに良くなるにはどうすればよいか文章で書きなさい。いくつ選んでもかまいません。

⑧ 友達のポスターを見て、次に自分が「国調べ」のポスターを作成する時に参考しようと思ったことをまとめよう。

9. 以上のことからあなたが一番すばらしい作品だと思ったのはどのポスターですか。1つ記号で選びそのポスターから「わかったこと、興味をもったこと」を文章で書きなさい。

10. 島根県の特徴をまとめよう。

11. 「これからの島根県」についてあなたの思いや願い、または意見を書きましょう。

① 未来の島根は自然を利用して若者を集めようとい
とりましたが、具体的にはどういうふうに利用すれば
いいんですか。

② 棒グラフが1つだけ離れすぎていて差が分かりにくいです。
グラフの上を線でつなぐとよいかと思います。

③ 目立たせたい、と思っているところの
色を逆に見るといいのでは
ないかと思いました。

④ 説明文が全体よりも、敬体も、ちょっと詳しい言葉の方が読み
やすいかと思いました。

島根県の水産業のレベルが今下げてきているということが
分かりました。そしてそれには自然の水が関わっていて、
家庭で汚れた水を流すことで海の水が汚れていることが
原因だと分かりました。農業も同じように、キレイな水があ
らなければ盛んなのだと分かりました。環境の問題と特産
物の関係に興味をもった。

島根県は少子高齢化が進んでおり、それは伝統文化、
農林水産業などにも影響している。そのために観光行先や
特産物で若者を集めようという県は努力している。県の中
には大きく3つのエリアがあるが、それぞれ異なっている。どこも今は
若者を増やし、産業を促進させようとしている。

今、とても問題に悩んでいる少子高齢化の問題ですが、
1年や2年で変えられるものではないと思います。若者を集
めようとして死になすのではなく、まず環境を整えて産業を
発展させ、生活のある県にしてほしいかと思っています。

2年 2組 番 氏名

作品は1人1作品であるため約160作品ある。また同じクラスの生徒の作品を評価すると、授業中作品の作成過程を見ているため誰の作品であるかがわかり、客観的な評価ができないおそれがある。そこで次の図のように工夫をした。美術作品などを展示するパネルを用意し生徒の所属クラス以外の作品を名前伏せて評価させた。例えば4組の評価するパネルはこのようになる。し

1組作品
2組作品
3組作品

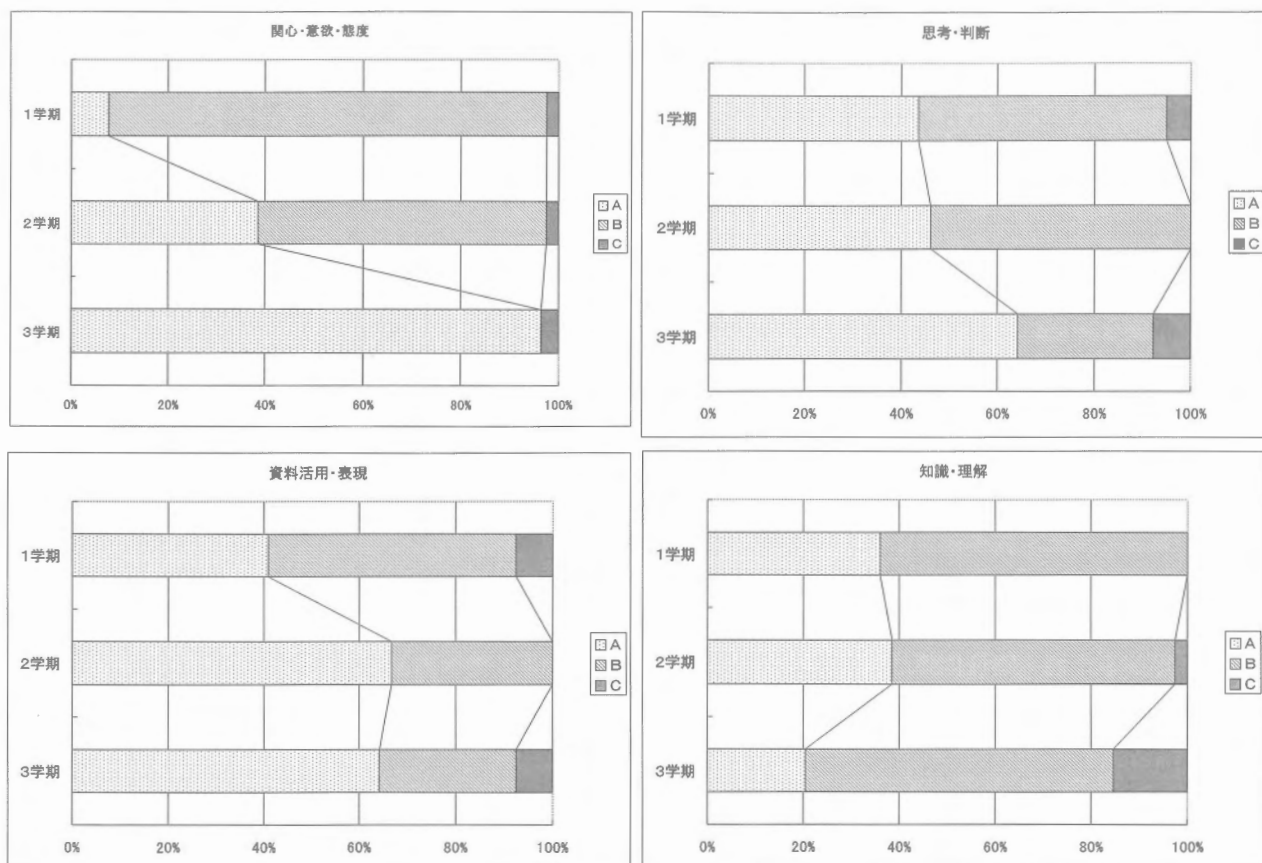
かしながら3クラス分でも約120作品となり多すぎるため、4組は1組～3組の作品の1番から23番を見るというように細かく区切り、どの作品も同じ生徒人数で評価されるよう配慮した。生徒たちは作品に見入ると担当するすべての作品を見ることができなくなるおそれがあるので、評価する作品をパネルの4面に分け、10分で場所をローテーションし、最後の10分で再度見たい作品を見直すよう指示した。実施してみた感想としては、生徒は1時間でおおよそ70～75作品を評価するのが限度だと思った。

生徒が高い評価をした作品は、その後廊下の掲示板に展示し生徒たちがゆっくり見られるように配慮した。

資料6は相互評価時の様子、資料7は生徒が高い評価をした作品である。具体的な評価方法であるが、「関心・意欲・態度」の観点では生徒のワークシートの1「あなたが見てみたいという気持ちになったポスター」にあがっていた作品に5点、その他の作品は3点を基準とした。丁寧に書ける作品やテーマと大きく外れた作品は2点とした。次に「思考・判断」の観点であるがこれは、客観的に評価ができているかを評価した。ワークシートの2～8までの項目で資料の正

3. 研究結果

一昨年度の3年生で、以上の実践を一年間行った際の観点別評価の変化を抽出した1クラス（40名）でみてみると次のページのグラフのようになる。「学力」を向上させるということは、観点別学習状況の評価をあげることに他ならないという最初に述べた前提にもとづく研究の仮説はほぼ立証されたといえるのではないだろうか。ただ「知識・理解」の観点は定期テストの難易度が反映されるため評価方法改善の成果がすぐには反映されにくい面があるのは否めない。



生徒が評価についてのガイダンスの時間に書いた“毎学期振り返り”をみると生徒の意欲の向上にこの評価方法が繋がっていることを読み取ることができた。

面談でわかった事

良かったところ

- ワークを毎回しっかりとできていた
- テストでは資料の活用がしっかりできていた

悪かったところ

- ノートのまとめ方に問題あり
- 用語、時事問題に課題あり

来学期の目標

今回の面談で自分には基本的な用語があまり理解できていないことを改めて気づくことができた。

またノートの復習などを来学期の目標にしていきたい。この夏休みは一年からの復習をして基本をしっかり固めておきたい。時事問題についてもしっかりと新聞を読んで対策をとっておきたい。(1学期 生徒K)

良かった点

ワークをきちんとやっていたので良かったです。

グループ活動や調べ学習でも自分の意見を言ったり、書いたりすることができて良かったです。

悪かった点

ワークシートを全然提出してないしテスト直しもきちんとやってないなど提出物関係のものをきちんとやってなかったこと。

来学期に向けて

提出物を出す。個人評価表の提出物の点をみること！

(2学期 生徒T)

3学期のおわりに「社会科の授業と評価についてのアンケート」を行った。

自己評価カード、個人評価表、評価についてのガイダンス（面談）について抽出クラス（40名）の評価は次ページのグラフのとおりである。代表的な意見としては資料8のアンケートと次ページのグラフの右の“評価理由”を参考にしていきたい。

【資料8 アンケート】

社会科の授業と評価についてのアンケート

- 1, 3年間を振り返って一番興味深かった学習内容は何ですか。理由があれば理由も書いてください。

“公民”です。今の社会がどう動いているかがわかることで、新聞やニュースを見たとき、「あ、この向習ったあのことか!!」とニュースを楽しめることができてました。とくに、日本国憲法はいい憲法だと思いました。(アメリカがうけてますね...)

- 2, 3年生の公民の課題、つまり復習ノート、コラムノート、新聞発表、ワークなどについて意見や、感想を書いてください。

復習ノートはあってすごくよかったです。今までテスト前やテストの直前にノートを見て勉強したことがなかったけれど、3年になって、お見せの復習ノートもつくることで、復習になりました!!

- 3, 3年生公民の授業について、学習内容や、教え方などについて意見や、感想を書いてください。

今までにないことが多くあり、最初ほどまとまりましたか、いい授業でした。とくにノートのほかに教科書のページ数がかいてあると、復習のときもさっと目を通したいときに、すごく役立ちました。

- 4, 3年生の社会科の自己評価カードについて下のA、B、Cのどれかに○をしてください。またその理由を下に書いてください。

カードがあって Aよかった Bどちらともいえない Cよくなかった
志が物がついてたりするなど、今の自分の状態を振り返り、
自分に活用することができました。

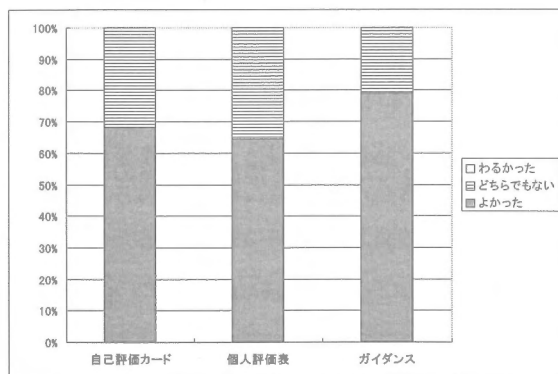
- 5, 3年生社会科の個人評価表（裏のもの）について下のA、B、Cのどれかに○をしてください。またその理由を下に書いてください。

評価表があって Aよかった Bどちらともいえない Cよくなかった
自分ほどに強いのか、どこを伸ばし勉強すればいいかなどが、
わかって、よかったです。

- 6, 評価の際、個人面談の機会（2, 3学期は希望者のみ）を設けたことについて下のA、B、Cのどれかに○をしてください。またその理由を下に書いてください。

個人面談があって Aよかった Bどちらともいえない Cよくなかった
どのようにして自分の成績がつけられるかを知ることが、とても大切なこと
だと思いました。質問をしたいできてよかったです。

- 1年間みなさんと一緒に勉強ができてとても楽しかったです。どうもありがとう♪



A評価

忘れ物がなくなった
 提出物をきちんと出すようになった
 自分の良い点悪い点が分かった
 どうやって評価されるのか納得できた
 先生のアドバイスが聞けた など

B評価

いい加減に自己評価していた
 記入するときショックが大きい など

4. おわりに

4年間にわたって実践研究を継続してきた「自ら学ぶ意欲を育てる評価のあり方」について一応の研究結果をまとめることができ正直なところほっとしている。今後も生徒の学力の向上のため、さらに評価方法を工夫し、生徒にわかりやすい学びと評価の一体化の具現化を目指していきたい。

参 考 文 献

- 渋谷憲一「子どもを伸ばす評価」(1987)ぎょうせい
 山崎林平「社会科の形成的評価入門」(1980) 明治図書出版
 佐伯真人 大杉昭英 澁澤文隆「新中学校教育課程講座 社会」(2002)ぎょうせい
 森分孝治 片上宗二「社会科 重要用語300の基礎知識」(2002)明治図書出版
 山極隆 無藤隆「自ら学び自ら考える力の育成」(1998) ぎょうせい
 文部省「中学校学習指導要領解説 社会編」(1998)

(たけざき ようこ 社会科 takezaki-y@edu.shimane-u.ac.jp)